

## 第39回 知的財産問題研究部会（IP部会）

テーマ『静岡大学研究室見学会と大学の知財・産学連携担当者との意見交換』

日時 2013年3月13日（水） 13:30～16:45

場所 静岡大学浜松キャンパス

イノベーション社会連携推進機構棟1F カンファレンスルーム

研究内容紹介 大岩教授（機械工学科）、香川准教授（電子工学研究所）

今回のIP部会は、いつもの会場を抜け出して、静岡大学の研究室を見学させていただきました。目の前で、研究の成果を体感できるわけですので、非常に楽しみにしていました。

初めに、高柳記念館を見学しました。職員の方の説明で、テレビの生みの親である高柳健次郎が行った研究の紹介がされました。機械式から電子式に切り替えることによって、初めてブラウン管に「イ」の字を表示させることに成功し、その後、わずか9年で、画像を映し出したとは驚きです。1935年のその当時は、走査線220本、毎秒20枚で映し出しました。それから70年以上経った今でも、この基本方式は変わっていないそうで、当時起きたイノベーションの大きさがものすごいものだったと想像できます。

次に、大岩教授、香川准教授にご自身の研究の概略を説明してもらい、2グループに分かれ研究室を見学しました。

大岩研究室では、ワークとツール間の6自由度方向を計測しフィードバックする精密機械システムやパラレルメカニズムを用いた機械の研究、超音波の振動をタイミングよく与え静止摩擦力を制御する研究、加振して表面の波の数より物体面の変位を正確に測定する研究など、いろいろ見せていただきました。その中でも、光ファイバーを利用した接触センサは、先端の球部分に触れたときの検知スピードが非常に速いのが特徴とのことで、その検知スピード利用して反射神経を測定するなど医療分野に活かせないかと感じました。

香川研究室では、ノイズを下げて暗い部分の感度を上げることにより広いダイナミックレンジを実現したCMOSイメージセンサや、光源から飛ばした光を反射させることにより測定するTOF（Time of flight）距離画像センサの研究を見せていただきました。ナノ秒単位の一瞬の時間に蓄積された電子一つ一つを操作し、制御する技術には目を見張りました。

その後、静岡大学イノベーション社会連携推進機構の産学連携コーディネーターを交えて、産学連携をテーマにフリーディスカッションを行いました。静岡大学では、このような見学会、意見交換会が上手くいけば、続けていきたいとのことで、今後は、企業の知財関係者だけでなく、技術者にも参加してもらうなどして産学連携を進めていきたいとのことでした。

今回の見学会は、はままつ知財研究会としても、初めての試みでしたが、普段は中々入る機会のない大学の研究室を見ることができて非常に有意義でした。参加した企業の知財担当者も、特許等の出願・権利取得手続きだけではなく自社の研究開発に積極的に関わっていく必要性を改めて感じたものと思われます。

また、研究室見学を通じての感想として、企業の知財担当者はやはり実用面を考えた産業的な目でこれらの研究を見るということになりましたが、すぐに実施に結びつけるのは難しく感じました。企業の基礎研究ですと、事業化に向けた流れのなかで研究していることが多いので事業と結びつきやすいところがあります。しかしながら、大学では、真理の探究という役割もあり、実用化のためだけに研究しているわけではありません。やはり、研究によってアウトプットされる新しい技術要素の特徴を捉え、その応用方法に気づき、それをどのように事業に結び付けるかを考える・・・・・・ここにビジネスがあると思います。

～ I P 部会委員代表～